

# 「真の治水」は、持続可能な未来をつくる。 ダムなし治水で赤倉温泉再生を!



## 河道改修＝赤倉温泉再生の絶好の機会

↑これが5/17,18のシンポジウムに参加した科学者が導いた結論です。

県が温泉街に、温泉確保のために作った堰(落差工)\*が土砂を堆積させ、内水氾濫、水害を引き起こしやすくしている。

温泉に影響せずに河道掘削することは技術的に容易である。

「河床掘削は温泉湯脈に影響するので不可能」との県の主張の拠り所であった金山荘の賠償事件は、護岸工事と湯温低下が関係ないことが、県の裁判資料により判明しました。



※堰(落差工)を取り外し、河道改修すると上図の様になります。



日本海から小国川上流部まで森・里・海をつなぐ100キロの生命のゆりかご

## 「ダムのない清流 小国川」と共生する温泉街へ。

美味しい松原鮎を食す「赤倉温泉」「瀬見温泉」と流域の地域づくり。  
「縄文の時代から受け継いだ文化」こそが地域の普遍的な価値であり人を魅きつけます。ここにしかない価値を未来に手渡しませんか。  
貴重な清流環境は、植物や昆虫の貴重種が見つかる生物多様性の宝庫。これを活かして「ユネスコエコパーク」も夢ではありません。

このプランは技術的にはなんら問題なく、実現可能だということが科学的に立証されました。